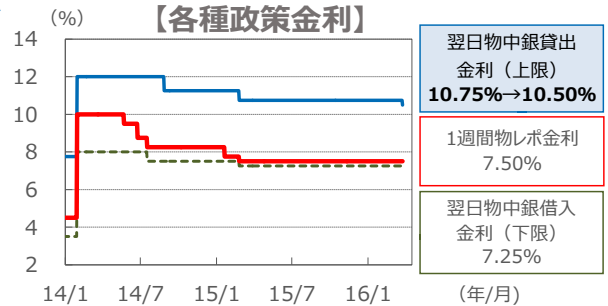


## 今日のトピック トルコの金融政策（2016年3月）

# 金利誘導レンジの上限を引き下げ

### ポイント1 上限金利を0.25%引き下げ 主要な政策金利は据え置き

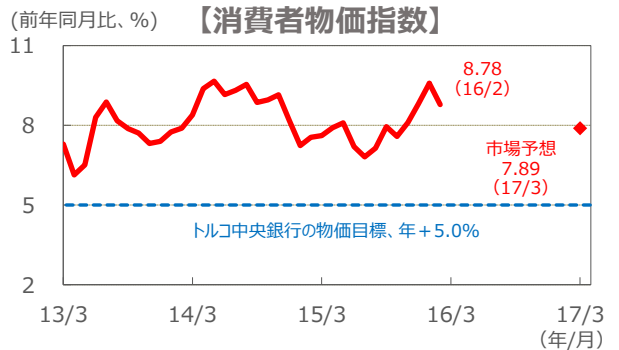
- トルコ中央銀行（以下、中銀）は24日、金利誘導レンジの上限を0.25%引き下げ10.50%とすることを発表しました。足元では、米国の利上げへの警戒感が薄らぎ世界的に金融情勢が安定化しつつあり、トルコリラは底堅く推移しています。中銀はこうした環境下、金利誘導レンジを広く維持する必要性が低下したと判断しました。
- 一方、主要な政策金利である1週間物レポ金利は7.50%に、金利誘導レンジの下限は7.25%に、それぞれ据え置きました。



(注) データは2014年1月1日～2016年3月24日。  
(出所) Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

### ポイント2 金融引き締め姿勢を継続 誘導レンジには引き下げの可能性

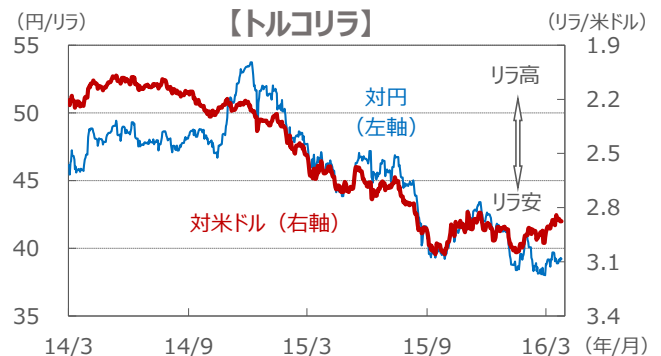
- 2月の消費者物価指数は前年同月比+8.78%と中銀の目標（年+5%）を大きく上回っています。中銀は、14年1月に通貨防衛のため大幅に利上げして以降、利下げを限定的にとどめています。今回も金融引き締め姿勢を続ける方針が示されたことから、当面主要な政策金利は据え置かれそうです。
- 一方、相次ぐテロによる観光客減少などから、景気には不透明感が強い状況です。中銀は、景気への配慮を強める場合、金利誘導レンジをさらに引き下げて市中金利の低下余地を作る可能性があります。



(注) データは2013年3月～2016年2月。市場予想は、トルコ中央銀行が2016年3月21日に発表した調査結果。  
(出所) トルコ中央銀行、Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

### 今後の展開 リラは底堅い推移継続へ

- 隣国シリアの軍事情勢や難民問題などを巡りトルコと欧米主要国の外交関係が深化しており、エルドアン大統領やダウトオール首相を中心とする政権に安定感が高まっています。高金利の下支えもあり、リラは底堅い推移が続きそうです。



(注) データは2014年3月1日～2016年3月24日。  
(出所) Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

### ここもチェック! 2016年3月23日 最近の指標から見る中国経済（2016年3月） 2016年3月17日 米国の金融政策（2016年3月）

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。